オンデマンド授業 手軽に

新型コロナ

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、インターネットを使った大学の授業のあり方の模索が続く中、福井大学は26日、ソフトウェア開発会社と協力して、教員や学生が手軽に利用できるオンデマンド型の遠隔授業支援システムを開発したと発表した。同大医学部で５月から導入している。システムのプログラムを無償で利用できる形でインターネット上に公開し、活用を呼びかけている。

福井大と県内企業 支援システム

無償でネット公開 活用を呼びかけ

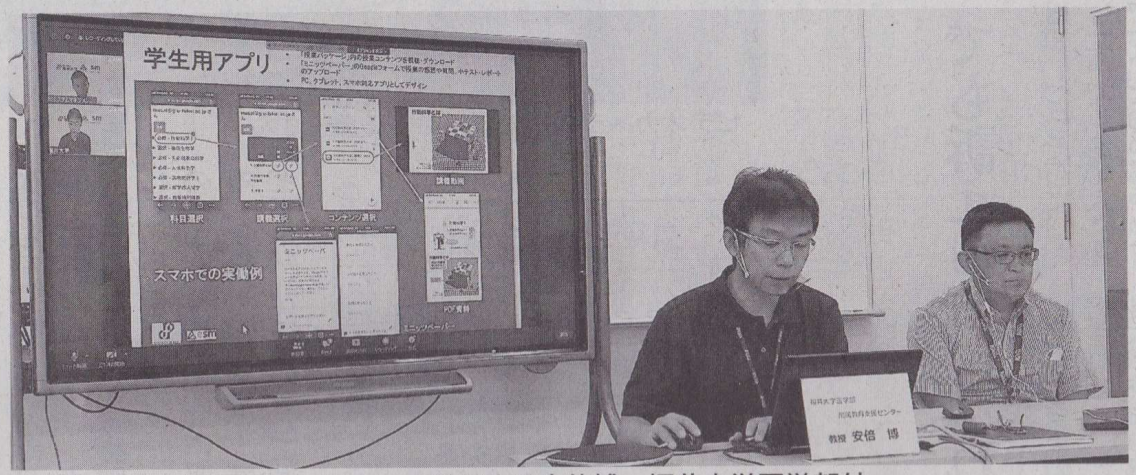
「F・MOCE（エフ・モス）」と名付けたシステムは、福井大医学部付属教育支援センターと、ソフトウェアの開発などを手がける「永和システムマネジメント」（本社・福井市）が共同で開発。グーグルが提供しているサービス「G Suite for Education」をもとに、インターネットを使った授業に不慣れな教員や学生が、手軽に利用できることを重視したという。

教員は、システム上にある授業のフォルダーに資料や動画などを登録。学生はそれらを好きな時に閲覧したり、ダウンロードしたりして学ぶ。容量制限がないため、大容量の動画や資料が登録できる。学生が教員に質問や講義の感想を送る仕組みも盛り込み、パソコンを持たない学生に配慮して、スマートフォンからも利用できるようにした。

大学からの情報などを掲載する掲示板や、体温などを記録する健康チェック表、教員が学生一人ひとりの受講状況を把握するためのツールなどもある。

この日、記者会見した安倍博・教育支援センター長は「使いやすく、シンプルな形を目指した。学生の健康状態や受講状況を把握できるなど、教員による学生へのきめ細かな支援にも役立つだろう。大学教育へのＩＣＴ（情報通信技術）導入の入り口として活用してほしい」と話した。

活用の幅を広げ、新たな技術開発につなげようと、プログラムは誰でも無償で利用できる「オープンソースソフトウェア」として、インターネットのサイト（https://new-hopes.healthcare/fmoce/）で公開している。（八百板一平）



遠隔授業支援システムについて説明する安倍博・福井大学医学部付属教育支援センター長（左）＝永平寺町の福井大学松岡キャンパス